

学校教育目標	自ら学び 伝え つながる深谷っ子 ○進んで学習に取り組み、自分の考えを深め、豊かに表現できる力を育てます。(知) ○互いのよさを認め合い、自他を大切に育てます。(徳) ○規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○深谷のまちを愛し、地域や社会のために自ら行動する力を育てます。(公) ○様々な人とのふれあいを通して、広い視野でともに生きていく力を育てます。(開)				
	創立 54 周年 児童生徒数: 226 人	学校長 杉田 仁	副校長 朽木 恵梨子	2 学期制	一般学級: 8 個別支援学級: 2
学校概要	主な関係校: 深谷中学校・汲沢中学校・横浜深谷台小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	深谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <心身ともにたくましく生きる力> <自分づくりに関する力>	深谷中学校 深谷小学校 横浜深谷台小学校	自ら学び 様々な人とつながり 互いに認め合う子ども ・教科間での情報交換を通して、授業改善に取り組むことにより、9年間を見通した確かな学力を身に付けられるようにするとともに、ICTの効果的な活用の充実を図ることで、主体的に学習に取り組む姿勢を養う。 ・9年間で育てる子ども像を共有し、Fph(Fukaya Peace to our heart)の理念のもと、小中一貫カリキュラムの教育活動を展開する。 ・児童生徒の交流活動に児童生徒が主体的に関わり、情報を発信することで中学校生活への理解を深め、中学への円滑な接続ができるようにする。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、対話的な学びを充実させます。 ・1年目は、特に学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的に学ぶ力を育てます。 ・2年目は、言語活動の充実を図り、子どもの表現を大切にしながら伝え合う力を育てます。 ・3年目は、子ども一人ひとりが多様性を認め合い、協働する教育活動を通して自分の考えを深めるようにします。 ○まちの「人・もの・こと」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、深谷のまちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、子どもの深谷のまちへの思いを引き出し、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ○日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>知 授業改善</b> 担当 重点研推進委員会	①誰もが安心して取り組める授業づくりをするために、教室環境の整備や教具、教材の開発、選択式課題設定など、特別支援教育の視点を取り入れる。②TTや教科担による授業サポート体制を組む。③外部機関との連携をとり、支援内容を明確にする。
<b>徳 人権教育</b> 担当 なかよし・人権委員会	①教育活動全体を通し、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できるように、一人ひとりを大切に支援する。②たてわり班活動や人権週間の取組を子どもの考えを取り入れながら、ちがいや多様性を認める学びを大切に、自尊感情や自己肯定感を育成する。③人権研修を通し、教職員の人権意識を高める。
<b>体 健康教育</b> 担当 体育部・食育部	①運動に親しみ、継続的に運動しようとする意識を高めるために、楽しく体を動かすことができる取組を児童と考え実施する。②生活記録などのデータをもとに生活習慣を振り返り、健康に過ごす課題に気づくようにする。課題解決の方法を自ら選択し、規則正しい生活習慣の定着と行動変容を目指す。
<b>公 自分づくり教育(キャリア教育)</b> 担当 特別活動部	①たてわり班活動の充実による異学年とのかかわりの中で、自分のよさを生かしながら、思いを実現し、主体的に活動できるようにする。学校の一員として、所属感や連帯感を感じながら参加し、互いのよさを認め合うことで、自己有用感を高められるようにする。②自分づくりバスポートを活用し、自らのキャリア形成を見通したり、振り返りを行ったりすることで、子ども自身が成長を自己評価できるようにする。
<b>いじめへの対応</b> 担当 学校いじめ防止対策委員会	①教育相談やアンケートにより小さな変化を見逃さず、積極的にいじめを認知し、子どもの心情に寄り添う。②毎月1回以上、いじめ防止対策委員会を実施し、いじめ認知案件の経過を丁寧に確認し、再発防止に努める。③研修により教職員のいじめに対する態度や組織的な対応力を高める。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b> 担当 教務部・メンター研修	①定期的なメンター研修を行い、前年度の課題から目標を立てて日々の指導に繋がる具体的な研修や目標への振り返りを行い、その内容を発信する。②学校の運営に関して子どもの声を聞く機会の設定を模索したり、積極的なICT活用を行ったりすることで、全職員での学校運営への取組を進めていく。③勤務時間を意識した学校運営環境づくりを進める。
<b>地域学校協働活動</b> 担当 教務部・共有ボランティアネットワーク	①学校運営協議会や地域協働本部と目指す子ども像を共有し、連携を深めて学びの充実を図り、深谷の「まち」を愛する心を育てる。②あいさつ運動や地域の方とふれあう活動などを年間計画に位置付け、子どもの意見を取り入れながら、相手意識・目的意識をもって展開し、感謝の気持ちや思いやりの心を伸ばす。
<b>特別支援教育</b> 担当 特別支援委員会	①特別支援委員会やケース会議を定期的開催し、教育的ニーズに応じた指導・支援を充実させる。②子どもの情報共有を迅速に行い、組織的に安心・安全な教育環境を整える。③教職員の要望に即した研修を実施し、必要に応じてコンサルテーションを計画する。
<b>児童生徒指導</b> 担当 評価・児童指導委員会	①児童支援専任を核に全職員で連携し、組織的な児童理解・児童指導に努め、迅速で丁寧な対応をする。②全職員で児童の状況を随時共有し、児童に寄り添ったきめ細やかな支援・指導をする。③不登校児童の実態に応じて、児童の思いに寄り添った組織的な登校支援やICTを活用した学習支援をする。
<b>情報教育</b> 担当 情報教育部	①情報モラルやデジタルシチズンシップ教育を計画的に行えるようにする。②学校図書館の計画的な利用やYomokkaを取り入れた読書活動の推進と充実を図る。③一人一台端末を活用し、適切な情報を収集したり整理分析したりして、自分に合った学び方を選択する力を育むとともに、分析した情報も使って人に伝える力を育む。